

---

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG通信

2022年No.4 (2022.8)

---

- ・ 第73回全国七大学対校陸上競技大会兼第33回全国七大学対校女子陸上競技大会  
(弘進ゴムアスリートパーク仙台)
    - …対校男子総合4位、対校女子総合3位
    - …大塚光陽(2)が男子800mで優勝、大会記録
    - …菅田理乃(2)が女子400mで優勝
    - …畠山千果(4)が女子砲丸投で優勝
- 
- ・ 第73回全国七大学対校陸上競技大会兼第33回全国七大学対校女子陸上競技大会  
2～13ページ
  - ・ 七大学戦の男女優勝杯更新寄贈について  
14ページ
  - ・ 自己ベスト更新者一覧  
15ページ
  - ・ OBOG戦のお知らせ  
16ページ
  - ・ 今後の予定  
16ページ
  - ・ 編集後記  
16ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月30日、31日に行われました第73回全国七大学対校陸上競技大会兼第33回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

## ◎第73回全国七大学対校陸上競技大会兼第33回全国七大学対校女子陸上競技大会

(7/30～7/31)～弘進ゴムアスリートパーク仙台～

2日間厳しい暑さの中で七大戦が行われました。3年ぶりに七大学がそろい、オープン種目も開催されました。主管校として臨んだ今大会、競技、応援、大会運営に部員一同奮闘しました。主将、女子主将の挨拶と対校戦各選手の様子を紹介します。

### ・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	名古屋大	105点
2位	大阪大	78.5点
3位	京都大	75.5点
4位	東北大	62.5点
5位	北海道大	41点
6位	東京大	30点
7位	九州大	27.5点

### ・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	名古屋大	25点
2位	京都大	23点
3位	東北大	21点
4位	大阪大	13点
5位	九州大	12点
6位	北海道大	6点
7位	東京大	0点

### ●主将、女子主将より

#### 主将挨拶

東北大学陸上競技部 前主将 佐藤千仁

今年の七大戦は、男子総合 4 位に終わり、目標としていた総合優勝には届きませんでした。3年ぶりの総合体育大会開催かつ東北大学が主管のなか、日頃より応援をいただいている皆様に最高の結果をご報告できなかったこと、本当に申し訳ございませんでした。我々現役部員も、運営を含め多くの力を注いできたこともあり、この大会の結果には痛恨の思いをもっております。本大会は、多くの OBOG の皆様にご協力をいただき、無事開催することができました。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

本大会を振り返りますと、自己ベスト更新者が生まれたこともあり、参加資格記録による下馬評からは 10 点以上多く総合得点を得ることができ、順位も 5 位から 4 位に上げることができました。これは、大事な大会に状態を合わせられたという意味で、チームの良さが表れた結果だと思います。一方で、上位入賞が見込まれる選手の棄権が重なったことに加え、無得点の種目が多くみられたことに敗因があります。また、トラック総合、フィールド総合ともに 3 位と、総合順位をともに上回る状況でありながら、いずれも他大を圧倒することができなかったことにも、今後の課題があるものと思います。そのため、今後は選手層を厚くし、また全パートにおいて実力強化を図るほか、突出した競技力をもつ部員の育成も必要となるかと思っております。

新主将の斉藤をはじめとした新幹部は、今年の悔しさを胸に、来年大会での総合優勝へ向け進み始めております。つきましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 女子主将挨拶

東北大学陸上競技部 前女子主将 大宮日菜子

今年度の七大戦は、女子は1位の名古屋大学と5点差、2位の京都大学と3点差の3位となりました。昨年の京都大会で2位に終わってから、1年間総合優勝を目標に練習に取り組んでいただけに、この結果には悔しさが残ります。優勝杯の奪還を多くの方に期待していただいた中、それに応えることができない結果となってしまいました。この大会は結果以上に意義のあるものになったと感じています。

3年生以下にとっては初めての2日間開催の七大戦となりました。この大会を通して、七大戦や対校戦を戦うというところを改めて考えることができたのではないかと思います。七大戦が終わった次の日から、新女子主将の伊藤を中心とした新チームは既に動き出しており、来年は必ず悲願の総合優勝を成し遂げてくれるものと信じています。

今年度の七大戦は、東北大が主管ということもあり、例年以上にOBOGの皆様には多大なご支援とご声援を賜りましたこと心より感謝申し上げます。またこの場をお借りして、当日に運営をお手伝いいただきましたOBOGの方々にも御礼申し上げます。皆様のご協力もあってこそ大会を成功させることができました。これからも部員一同努力を重ねますので、今後とも変わらぬご指導・ご声援をいただければ幸いです。

### ●七大戦各競技を振り返って

#### ☆トラック

#### 男子 100m 予選

##### 1組 7着 川手拓郎(2) 11.33(-0.7)

スタートの反応は良かったが、上体が上がってから少し力んでしまい後半区間でオーバーライドになり減速が大きくなって7位でフィニッシュ。

##### 2組 6着 元木盛太(2) 11.37(+0.1)

いつも通り安定したスタートを切ることができたが、二次加速で上手くスピードに乗り切ることができなかった。アップの段階から両腓腹筋が攣ってしまっていたため流しを十分にいれられなかったことも原因だと考えられる。ラスト20mくらいで再び足が攣り、走りが崩れ、6着でフィニッシュ。

##### 3組 5着 藤井大陸(4) 11.24 (-1.7)

スタートで先行するも、中間疾走で力み十分なトップスピードを出せず、そのまま減速していき5着でフィニッシュ。

#### 女子 100m 予選

##### 1組 2着 菊池志乃(1) 12.98(-2.9)

スタートで出遅れるが、他の選手に追いつき、

2着でゴール。

##### 2組 3着 山崎萌々子(4) 12.77(-1.9)

8レーンからスタート。勢いよく飛び出す。順位をキープし3着でフィニッシュ。

#### 女子 100m 決勝

##### 4位 菊池志乃(1) 12.88(-0.5)

予選と同様、スタートで出遅れる。30m付近からの加速がスムーズにできたが、後半はフォームが崩れ、接地が上手くできず、4着でフィニッシュ。

##### 6位 山崎萌々子(4) 13.02(-0.5)

8レーンからスタート。スタートから出遅れる。そのまま離され6着でフィニッシュ。

#### 男子 200m 予選

##### 1組 5着 西尾陸大(2) 22.61(-1.6)

不調のまま臨んだ大会。スムーズな前半加速が行えず、後半100mも伸びのない走りに。

##### 2組 5着 平井嘉人(4) 22.79(-1.2)

スタート、最初の100mを気持ちよく走ることを意識した。100m通過時点で内から抜かれていたので後半はギアを上げようとしたものの、上体のブレ等でうまくいかずに5着。

##### 3組 6着 吉田陸人(4) 23.65(-3.4)

スタートは上手くいくも、カーブ頂点あたりで膨らんでしまいコーナーを上手く走れず。コーナーの抜けあたりで1つ内側の選手と並んで力んでしまい、減速しながら6着でゴール。

### **男子 400m 予選**

#### **1組 3着 菅野涼太(1) 50.14**

入りの100mは良い加速ペースで走れ、バックストレートもその流れで脱力しながら良いスピードで走れた。ラストで手足がバタついたため、伸びが悪かったがなんとかUBでフィニッシュできた。

#### **2組 3着 川野輪拓也(2) 50.27**

49秒台を目標とし、前半から仕掛ける作戦。結局ちょうど良い塩梅となり、後半に外レーンの選手が落ちてきたところを刺し3位でフィニッシュ。

#### **3組 1着 佐藤千仁(4) 50.23**

スタートから大きなストライドで抜け出し、バックストレートは力を使わずに進む。2着との差をみつつ最後は流してゴール。

### **男子 400m 決勝**

#### **2位 佐藤千仁(4) 48.87**

スタートから大きなストライドで抜け出し、バックストレートは力を使わずに進む。先頭でホームストレートに入るも、1位に抜かされ2位でゴール。

#### **5位 菅野涼太(1) 50.63**

予選と同じ感覚で走ったが、後で確認すると明らかに予選より遅かった。疲労具合や身体感覚を上手く捉えていなかったのだと痛感した。ラストは動いたので平静を保ちつつ上の順位を目指して食らいつき、5位でゴールした。

#### **8位 川野輪拓也(2) 52.12**

ラウンド戦に適応出来ずに前半から後半まで流れに乗れずに終了。

### **女子 400m 予選**

#### **1組 1着 菅田理乃(2) 59.55**

バックストレートで左隣の阪大の選手が前に出たためついていくことにした。200mを過ぎたところでスピードを上げ先頭を走る。差を

広げて1着でゴール。

#### **2組 1着 山崎萌々子(4) 59.17**

6レーンからスタート。スタートを出遅れ内側の選手に先行を許し4番手で300mを通過。そこから追い上げ1着でフィニッシュ。

### **女子 400m 決勝**

#### **1位 菅田理乃(2) 57.51**

スタート後、左隣の北大の選手が前に出たためついていくことにした。スピードをあまり落とさず、ラスト150m付近で抜かし1着でゴール。

#### **3位 山崎萌々子(4) 58.71**

3レーンからスタート。外側を追って200mを通過。5番手から追い上げるも2着と並んでフィニッシュ。

### **男子 800m 予選**

#### **1組 6着 尾崎祐太(2) 1:59.99**

スタートから終始集団の後方で走る。ラストは集団のスパートに着いていくことができず6位でフィニッシュ。

#### **2組 1着 大塚光陽(2) 1:55.09**

ブレイク直後から4番手でレースを進め、650m地点から先頭に立つ。ラストは後方を確認しながら余裕をもって決勝進出を決めた。

#### **3組 3着 千葉琢巳(4) 1:56.20**

200mで良い位置取りをし、2番手でレースを進める。500m過ぎてバックストレートで3人に抜かれ5番手へ。ラスト100の直線で2人かわすも3着でフィニッシュ。プラスの一番手で決勝進出。

### **男子 800m 決勝**

#### **1位 大塚光陽(2) 1:53.48**

ブレイク直後から後方でレースを進め、600mを6番手で通過した。600以降一気に追い上げ最後は同タイム着差ありでの1着となった。

#### **3位 千葉琢巳(4) 1:54.81**

最初の400mは集団後方からのスタート。500m過ぎて集団のペースが上がるも冷静に着け、ラストの150mから前を追ってスパート。

4人を抜いて3着でフィニッシュ。

### **女子 800m 決勝**

#### **3位 菅田理乃(2) 2:19.26**

スタート直後、疲労のせいかキレがなくおいでいかれる。350m 地点付近までに数人を抜かし、3番手につく。そのまま3着でゴール。

#### **11位 木村瑞葉(2) 2:35.68**

スタートで出遅れその後少しスピードを上げたものの後半も失速して11着でフィニッシュ。

### **男子 1500m 決勝**

#### **12位 渡辺喬介(3) 4:07.54**

スタートをうまく決めることができたので、800m 付近までは先頭のペースについて行く。それ以降は先頭集団と距離ができ始め、徐々にペースも落ちて12位でゴール。

#### **20位 稲川亮太(3) 4:18.91**

レースが始まり、初めは後方集団についてレースを進める。その位置をキープしたまま、最後まで粘るがついていくことができずにゴールした。

#### **DQ 相澤啓太(3)**

スタートして15番手付近でレースを進める。その後18番手まで順位を落とす。ラスト1周を過ぎてインフィールドに入ってしまう失格。ラストのキレも悪かった。

### **女子 3000m 決勝**

#### **6位 阿部柚佳(4) 11:14.24**

序盤はやや後方からスタートし、先頭を追う形となった。中盤までは一定のペースで刻んでいたものの、後半に差し掛かると徐々にペースが落ち始めた。抜いたり抜かれたりを繰り返し、ラスト100m で1人を抜かして6位でフィニッシュ。

#### **13位 小山麻妃(3) 12:25.91**

スタート直後から単独走となり、2周目で一気に失速。中盤に1人抜かしたものの、その後もスピードは上がりず13着でゴール。

### **男子 5000m**

#### **9位 坂本順(3) 15:48.12**

スローのレース展開で、1000m 過ぎの急激

なペースアップに対応できなかった。中盤まではある程度余裕を残して走っているつもりだったが、猛暑の中で最後までペースを上げることができなかった。

#### **10位 工藤大介(4) 15:52.45**

3000m までは先頭集団につけていたが、3000m 過ぎのペースアップに対応できなかった。その後大きくラップを落とし、後ろから来た選手にも抜かれ10位でゴール。

#### **21位 安本尚生(2) 16:48.46**

タイム、結果ともに非常に悔しいものでした。暑さへの対応など様々な面において対策が全く足りていませんでした。去年よりもひどい走りをしてしまい、応援して下さった方には大変申し訳なく思います。次の七大戦の舞台に立つことができれば、今年のリベンジをしたいと思います。様々な方のサポートによって走れた舞台で非常に情けない結果しか残せず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。大変申し訳ありませんでした。また、これからもサポートよろしく願いいたします。

### **男子 110mH 予選**

#### **1組 2着 岡田幹太(3) 15.11(-0.9)**

3台目までで前2人にかかなり先行されたが、最後まで粘り、逆転。2着でゴール。

#### **2組 2着 齋藤晃汰(3) 14.94(+0.4)**

スムーズにスタートを切るも、3台目以降何度もハムを当ててしまう。接触の影響で上手くスピードに乗り切れず、後半は間延びしたままフィニッシュ。

#### **3組 3着 中村祐貴(4) 15.60 (-0.1)**

終始隣のレーンの選手と並走し、10台目の後に前に出られ競り負け3着でフィニッシュ。

### **男子 110mH 決勝**

#### **4位 齋藤晃汰(3) 14.74(-0.3)**

スタートで出遅れるも、1台ずつスピードを上げていく。5台目辺りで3位に順位を上げたが、10台目を超えた後、トルソーの差で表彰台を逃してしまう。

#### **7位 岡田幹太(3) 15.35(-0.3)**

疲労で全くキレのない走り。最後まで1点獲得を目指したが及ばず、7着でゴール。

### **女子 100mH 決勝**

**3位 山崎萌々子(4) 15.70(-1.5)**

1台目に大きくぶつけスタートから失速。立て直すものの先頭に追い付けず3着でフィニッシュ。

**8位 西條絵莉香(3) 20.09(-1.5)**

5台目のハードルまで予定通り4歩でインターバルを走ることができたが5台目のハードルを倒してしまったことでリズムを崩しインターバルの歩数が5歩になる。その後なんとか持ち直しPBを1"29更新して8着でゴール。

### **男子 400mH 予選**

**1組1着 池谷駿(2) 53.94**

前半は上手くスピードに乗ることができなかったが、後半の減速が少なく上手くレースをまとめることができた。レース前はあまりタイムを気にせず走ろうと思っていたが、思いの外調子が良く、PBを大幅に更新することができた。

**2組1着 阿部竜胆(1) 54.43**

前半は力を使わずに外側を抜き、後半からギアを上げて走った。後ろを見て流す余裕があったが、大学入学後2本目でPB更新。

**3組2着 岡田幹太(3) 51.10**

決勝に向けて、8台目まではリズムと動きの確認。残りは流して2着でゴール。

### **男子 400mH 決勝**

**2位 岡田幹太(3) 53.64**

200mまでは、ただただリラックス。6~8台目で一気に切り替え、残りは意地で逃げ切る。大幅PB、2着でゴール。

**3位 阿部竜胆(1) 54.10**

前半スピードに乗り切れず遅れる。後半は巻き返し何とか3着でゴール。PB0.89秒更新。

**4位 池谷駿(2) 54.24**

予選を上回る走りをしようと意気込んでいたが、疲労感があり調子が良いとは言えなかった。10台目でまさかの逆足となり、後輩に最後さされてしまった。結果4位という悔しい結果に終

わってしまった。

### **3000mSC 決勝**

**8位 鳥山拓実(2) 10:07.54**

**12位 小林由輝(2) 10:16.42**

最初から攻めたレースをしようと前目に位置取り、集団についていった。1000m過ぎから足が止まり、ペースを大きく落としたものの、順位を維持してそのままゴール。

**14位 野地健太郎(2) 10:22.36**

1キロ通過までは集団の後方において、3'13で通過したが、そこから足が動かなくなり、どんどん前の選手と離れてしまい単独走となってしまった。そのまま集団からこぼれてきた選手を少しずつつかまえ14着でゴール。

### **男子 5000mW**

**5位 辻本隆文(4) 23:06.70**

### **男子 4×100mR 決勝**

**5位 41.78**

**元木(2)-齋藤(3)-西尾(2)-川手(2)**

元木が得意のスタートとピッチで果敢に攻めるも東大1走に離される展開。

2走齋藤は快走するも全体順位の変動なし。

3走西尾も快走したものの内レーンの京大に大きくリードをつけられる。

急遽出場が決まった川手はスムーズなバトンパスからうまく加速に乗ったが、5番手を維持したままフィニッシュ。

上位4校との実力差を痛感したレースであった。

### **女子 4×100mR 決勝**

**4位 50.30**

**加賀谷(1)-山崎(4)-伊藤(3)-菊地(1)**

3レーンからスタート。

1走加賀谷は内側の名古屋大学に追われながらも前の京都大学に必死に食らいついて安定したバトンパスで2走山崎へ。

2走山崎は大きなストライドで前の大学との差を着実に詰め3走の伊藤へ。

3走伊藤は3レーンのカーブを安定したピッチとストライドで駆け抜け、他大学に食らいつ

きながら4走菊地へ。

4走菊地はいつもの安定感抜群のストライドで他大学との差を詰め、中間からゴール付近で他大学を抜き返して全体4位でフィニッシュ。

### **男子4×400mR 決勝**

**3位 3:18.63**

#### **菅野(1)-岡田(3)-阿部(1)-佐藤(4)**

1走の菅野はスタートでは少々出遅れたものの、最後まで粘りピッチを維持し、4着でバトンを渡す。2走の岡田は前半にスピードを出す他校に一時遅れをとったが、乱されることなく4着を保持しバトンを渡す。3走の阿部も前半は5着になるも、ダイナミックなフォームでホームストレートで抜き返し4着でバトンを渡す。4走の佐藤は前半で他校との差を詰め、ホームストレートで1つ順位をあげるも2着にはわずかに及ばず3着でゴール。

#### ☆フィールド

### **男子走高跳決勝**

**3位 平山朝陽(2) 1m90**

調子は良く、今回こそは目標としている2メートルを跳ぼうと意気込んでいましたが191センチという結果に終わり悔しかったです。しかし対抗戦としては3位でポイントを稼ぐことができてよかったと思います。助走は完成に近づいているので納得いく助走を作って来年こそは優勝を狙えるようにしたいと思います。

**4位 嶋崎雄飛(3) 1m90**

熱中症と脱水症状なんて二度となりません。

**12位 藤田想(2) 1m75**

2日続けての試合だったため若干疲れはあったが、その割には直前の練習でしっかり体が動いていた。本番の1m70では、助走でスピードが上がりきっていなかったが跳躍の形は悪くなく、問題なく1回目でクリアした。1m75では、体の動きが良くなったのか助走がよく走れたので若干踏切が近くなったが、踏切動作でなんとか合わせ、バーに触れたものの1回目でクリアした。1m80では、体がより動くようになってきたので、助走開始位置を半足長下げ

て跳躍に臨んだ。1本目は、助走の形は良かったが、少し慎重に走ったからか踏切が少しだけ遠くなり、頂点が若干バーの手前にずれ、惜しくもバーを落とした。2本目は、曲走に入ってから2歩目までは良かったが、その後の3歩で踏切に対して構えすぎて少しスピードが落ち、その後のクリアランスで調整を試みたがわずかに太ももがバーに当たり、失敗跳躍となった。3本目は、踏切準備をしながらも助走の最後で加速することをイメージして跳躍に臨んだが、内傾の1歩目が甘くなり、そのまま体が外に振られ、バーに突っ込むような跳躍になってしまった。今回の試合で全く満足の行かない結果となった要因としては、追い込まれた状況でのメンタルの弱さ、そして、技術面での再現性の低さが挙げられると思う。まずは、日々の練習で、同じ動きを何回やっても崩れずできるようになり、そしてそれがどんな精神状態でもできるようにするため、試合などの経験を積んでいきたい。

### **女子走高跳決勝**

**4位 原田萌々子(2) 1m60**

公式練習で1m50を2回とも余裕を持ってクリアできたため、試技は1m50からスタート。1m50、1m55は問題なくクリア。1m60の1回目は浮いたものの脚をかけて落とした。2回目は、バーが大きく揺れたもののクリア。1m63は1、2回目は高さが足りず失敗。3回目は助走に失敗した。

自己ベストを更新でき、点数を取れたので良かった。これからは、1m60以上の高さを跳べるよう努力していく。

### **男子棒高跳決勝**

**2位 野田耀司(4) 4m20**

表彰台をまず決めるために4mからスタートしました。1本目で成功し、言い流れを作ることができたのですが4m30では跳躍で横の幅をあわせることができず落としてしまいました。現実的な数字として目標を4m50としていたため非常に悔しかったです。4年ぶりにPB更新

し、ポイントという形で部に貢献できた点に関しては満足しています。

私たちが日頃、十分な環境下で棒高の練習をできるのは、支えてくださるみなさんのおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

### **8位 根本大輝(3) 3m60**

3m40から試技を開始した。3本目に記録を残し自己ベスト記録の 3m60 に挑戦した。3m60は1回目クリアランスをすることができずに失敗に終わったが、2回目しっかりとバーをクリアし 3m80 へ挑戦した。3m80は1本目に惜しくもバーを落としてしまい、その後もクリアできずそのまま記録は 3m60 だった。

### **DNS 島村唯葵(1)**

#### **男子走幅跳決勝**

### **2位 細島慎友(4) 7m03 (+0.8)**

6m94(+0.5)- 6m77 (+1.4)-7m03 (+0.8)- 6m95 (+1.5) -F - 6m77 (+1.2)

PBを約 30cm 更新して 2位の表彰台にのぼることができた。1本目でほぼ決勝に残れる記録を残せたので、リラックスして残りの跳躍を勝負しにいけたのがよかったと思う。

個人的に一番良かった点として、助走距離の調節が上手になったことだ。去年の七大戦では助走距離の調節に失敗して満足した跳躍ができていなかったが、今年は試合数を増やすことで助走距離の調整の精度をあげられていったように思う。結果として、3本目で自分が一番気持ちよく跳べられる助走ができ、7m跳ぶことができた。

今回の跳躍で得た感覚を忘れずに次につなげていきたいと思う。

### **12位 根本大輝(3) 6m47(+2.3)**

第1跳躍でセカンドベストである 6m43を記録した。第3跳躍で追い風参考記録ながらも 6m47を記録し、12位で競技を終了した。

### **13位 山中勇利(3) 6m45(+1.4)**

1本目は助走のスピードが乗り切らないまま踏み切ったが、練習してきた踏切を再現でき、

大学ベストの記録を出せた。2本目は助走の出力を上げて記録更新をめざしたが、踏切準備で失敗し1本目と同じ記録になった。

3本目は跳躍自体の高さは抑えめなもの、3本中最もスピードのロスがなく、記録を更新して 6m45 に終わった。

目標としていた自己ベストの 6m60 には届かなかったが、今期3回目の大学ベストで、収穫も多い試合となった。

#### **女子走幅跳決勝**

### **2位 伊藤未空(3) 5m27(+2.9)**

#### **1本目 F**

直前練習で走れていたため助走を下げたが、2cm程ファールだった。距離は、5m50以上出ている。

#### **2本目 5m14cm**

1本目が F だったため安全策で助走を緩めた。助走スピードは落ちたが、まとまった跳躍だった。

#### **3本目 5m27cm**

スピードが出て、その勢いを殺さずに踏み切ることができた。2位に浮上。

#### **4本目 5m11cm**

疲れが出てきて、踏切1歩前で間延びをしてしまった。その結果、低空になってしまった。

#### **5本目 5m18cm**

4本目同様、疲れで助走のストライドが狭まってしまい、踏切版に足が乗らずに踏み切ってしまった。

#### **6本目 5m18cm**

4.5本目の反省を踏まえて、スタート地点を前にして臨んだ跳躍。踏切で力が入らず、低空になってしまった。直前で、逆転され、3位確定。

調子の良い1本目で F をしてしまう癖や後半になるにつれて、ストライドが狭まってしまう傾向が出てしまい、そこに対応しきれなかった。この2点を意識して練習に取り組み、改善していきたい。

### **6位 須藤桃由(2) 4m93(+2.7)**



試合直前の練習では助走が合わず、全助走での踏切もできなかった。不安が残ったまま試合が始まったが、1本目で4m77を記録した。2,3本目は記録が伸びなかったものの、4本目で立て直し、ベスト8に残ってからの3本は助走スピードを生かした跳躍ができた。4本目に追い風参考ながらPBをこえる4m93、5本目にPBタイの4m87を記録した。試合直前に足を痛め、練習を十分に積めなかったことが敗因だと感じている。今後は怪我を治し、踏切の技術を習得して記録を伸ばしていきたい。

### **男子三段跳決勝**

#### **3位 大谷航平(3) 14m29(+0.1)**

##### **1本目 14m29(+0.1)**

一本目に良い記録を出しておきたいと、気合を入れて臨んだ。助走の流れがかなり良く、踏切位置は遠かったもののスムーズに跳び出せた。ステップジャンプは若干バランスを崩し理想の動きはできなかったが、失速しなかったため記録が伸びた。自身初の14m台。

##### **2本目 F**

1本目で良い記録が出たため攻めた。助走のスピードがさらに上がり記録が狙えそうだったがファール板を踏んだ。感触でファールと分かったため跳ばずに駆け抜けた。

##### **3本目 13m14(+0.5)**

踏切前に間延び。また、ジャンプで潰れ跳びきれなかった。

##### **4本目 F**

ベスト8開始までの時間にしっかりと足を休め、再び記録を狙いにいった。しかし、助走の段階で5月に肉離れした右ハムに疲労感が生じ、ぎこちない動きになった。結果1~2cmのファールとなったが、意外にも14m30付近までは跳べていた。

##### **5本目 パス**

##### **6本目 13m14(+0.7)**

気合を入れるため手拍子。右ハムに違和感がありながらも攻めた。ホップまではハマった感があったものの、ステップで耐えられず潰

れた跳躍になった。競技終了。

結果的にはPB更新の3位となり、最低限の目標は達成できた。しかし、1本目しかまともな記録を残せなかったのは反省である。まずは怪我に対する心理的な不安をなくすこと、そして本大会で得られた技術的課題を解決することで、今後も記録向上に努めていきたい。

#### **11位 藤田想(2) 13m75(+1.2)**

試合直前の練習では、今まで経験したことのないくらい調子がよかった。しかし、試合の1本目は、ホップの入りの段階で腰が落ちて潰れ、ステップ、ジャンプでも重心が低いままの跳躍となり、記録は13m75(+1.2)に留まった。そこで2本目は、腰を高く保った跳躍を心がけたが、空中で力が入ってタイミングがずれ、ステップの踏切で足を前に接地しすぎたためブレーキがかかり、上体がつんのめったのでジャンプでもうまく跳べなかった。記録は13m44(+1.8)だった。そして3本目は、上体を立てて力まず跳ぶ意識で跳躍に臨んだが、それ以上に気持ちのはやり過ぎていて、落ち着いて跳躍ができず、その結果2本目の修正点を改善するどころかさらに崩れた跳躍となってしまう、記録も13m65(-0.5)と伸ばせなかった。今回の試合では、調子の良さを本番に全く生かせず、自分の技術、精神力の圧倒的な不足を改めて痛感した。課題は概ね分かっているので、すぐにでも改善に着手したい。

#### **14位 大木島壮(4) 13m52(+1.6)**

##### **1本目 F**

数cmのファールをした。またジャンプも潰れてしまったため、実測でも13m80ほどとみられる。

##### **2本目 13m52(+1.6)**

1本目の跳躍から、助走5~8歩目のストライドを短くした。しかしそれがハマらず、板の手前から踏み切ってしまう結果が出なかった。

##### **3本目 13m41(+1.4)**

2本目同様、板を踏まずに踏み切った。ホップステップが低い弾道であり距離が出ず、記

録を伸ばせなかった。

1 本目のファールで自分の助走、跳躍ができなくなってしまったことが最大の敗因。今後は、右足首の怪我を治しつつ、試合を積むことで自分の助走、跳躍の形を完成させていきたいと思う。

#### **男子砲丸投決勝**

##### **5位 根本大輝(3) 10m30**

1 投目ファールしたものの 2 投目に自己ベストである 10m30 を記録した。3 投目から 6 投目は男子走幅跳と男子棒高跳と競技が重なったためパスした。5 位だった。

##### **7位 川内蒼馬(2) 9m61**

##### **14位 金岡有途(1) 8m20**

全く実力を発揮することができなかった。ベストからもかなり遠かったのもっとしっかりと練習をしていきたい。

#### **女子砲丸投決勝**

##### **1位 畠山千果(1) 11m14**

3 投目までに 11m30 以上の記録を出し、それ以降でさらに記録を伸ばすことを目標にしていた。かし、1 本目で砲丸が抜けてしまい、失敗投擲となり多少焦りが生じた。3 本目以降は記録を 11m 超えでまとめることができたが、会心の 1 本は出せずにあまり記録を伸ばせなかった。目標としていた大会新記録を出すことはできなかったが、しっかり優勝して 4 得点をとり、中止となった 2020 年を除いて 3 連覇を達成できたのは良かった。

##### **DNS 平谷めるも(1)**

#### **男子円盤投決勝**

##### **8位 根本大輝(3) 28m81**

第 2 投擲でセカンドベストである 28m81 を記録した。その後の投擲は課題のフォームを修正し切ることができずにそのまま記録は 28m81 となった。

##### **15位 倉部彰士(1) 19m60**

一投目で円盤が早く離れてしまったため、二投目で修正し PB。最後まで振り切ることができたため、今後に生きる投擲となったが筋力

不足を痛感した。

##### **17位 金岡有途(1) 18m09**

高校から重くなった円盤に対応しきれず、惨敗。今後もっと練習を積み、30m を目標に頑張っていきたい。

#### **男子ハンマー投決勝**

##### **8位 金岡有途 20m04**

得点を取ることを目標にしていたが、あと一歩及ばず、8 位だった。決勝に残れたのは嬉しかったが、得点を取りたいという思いが強かったので、悔しくもあった。また今度ハンマー投に出場する機会があったら、もっと完成度を上げていきたい。

#### **男子やり投決勝**

##### **9位 小武右京(1) 48m93**

目標は 3 本以内に 50m、ベスト 8 に残ったあとの 3 本で 53m を目標とした。練習投擲と本番 1 投目は短助走で投げたが周囲のレベルが思ったより高いと感じ、50m 以上投げるため 2、3 投目は全助走で投げた。平均 47m 程ではあるが、50m 越えは投げる事が出来なかった。

##### **10位 能澤圭輔(2) 46m02**

七大戦が始まる約 1 週間前に正選手が決定したためか、正直調整不足感が否めなかった試合であった。そこが顕著に現れていたのが助走であった。跳躍競技全般にもいえることだが助走を如何に活用できるかが記録の善し悪しに直接関わってくるといっても過言ではないが、私の助走は投擲に全く生かしていない。その特性が当日も現れ、あまり納得がいかない結果となった。助走はさておき、投擲それ自体にはある程度満足していく物であった。足腰やおなかの回旋、しなり等技術的な側面を見れば全くもってよいものではないのかもしれないが、その投げの速度に注目すると、自分としては納得のいく物であった。当時の私としても今の自分の技術ですぐに改善できるところとしてはそこしか思い浮かばなかったため、思い浮かんだその点を大会中に意識改善できたの

は大きい収穫であった。しかし、蒸気にあるように至らない点も多数散見されたため、今後の投げの見直しを頑張っていきたい。

### 11位 澤田翔太(3) 45m51

楽しく投げることはできた。しかしながら経験不足が露呈した試合だった。一週間前の練習で投げすぎたのが要因。切り替えてトレーニングを積みたい。

### 女子やり投決勝

### 3位 畠山千果(4) 29m32

やりの角度、力を加える角度だけを意識し、あとは思いっきり投げようと考えていた。練習投擲では 30m を超えたものもあったが、記録では超えることができずに悔しさが残るが、下馬評から逆転されることなく 3 位で得点をとれたことは良かった。

### DNS 平谷めるも(1)



集合写真

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位									
7月31日	男子100m 風: -0.8	吉田 悠樹(4) 京都市大	10.95	梅田 光太郎(2) 大阪大	10.97	山田 慎之助(2) 京都市大	10.98	松中 馨大(3) 大阪大	11.02	山本 悠生(4) 名古屋大	11.04	菅野 宏紀(4) 大阪大	11.15	鳥居 青矢(4) 名古屋大	11.22			
7月31日	男子200m 風: -1.5	梅田 光太郎(2) 大阪大	21.62	鳥居 青矢(4) 大阪大	21.67	高橋 昂生(1) 京都市大	21.87	松中 馨大(3) 大阪大	21.94	山本 悠生(4) 京都市大	21.94	吉田 悠樹(4) 大阪大	22.05	家方 優希(4) 大阪大	22.11	香月 翔太(4) 東京大	22.22	
7月31日	男子400m	細野 航太郎(4) 大阪大	48.79	佐藤 千仁(4) 東北大	48.87	益田 椋多(2) 京都市大	49.70	岩本 翔太(2) 京都市大	50.09	菅野 涼太(1) 東北大	50.63	西岡 健伸(4) 東京大	51.24	藤浦 敦士(3) 京都市大	51.40	川野輪 拓也(2) 東北大	52.12	
7月31日	男子800m	大塚 光陽(2) 東北大	1:53.48 GR	北岸 健吾(2) 東京大	1:53.48 GR	千葉 琢巳(4) 東北大	1:54.81	宮瀬 陸(4) 北海道大学	1:54.87	高橋 コウ(1) 北海道大学	1:56.09	西川 光平(2) 京都市大	1:56.38	安井 遼祐(4) 名古屋大	1:56.65	越野 レオ(2) 東京大	1:59.29	
7月30日	男子1500m	坂東 賢(4) 大阪大	3:52.21	宮瀬 陸(4) 北海道大学	3:52.22	山田 卓郎(2) 九州大	3:53.02	重田 直賢(4) 名古屋大	3:53.50	林 亮佑(4) 北海道大学	3:54.18	古田 龍嗣(4) 九州大	3:58.51	谷 知典(4) 東京大	4:00.05	森本 聡(4) 東京大	4:01.99	
7月31日	男子5000m	河崎 憲祐(3) 名古屋大	14:55.76	坂東 賢(4) 大阪大	14:58.98	林 亮佑(4) 北海道大学	15:00.96	田尻 慎之介(2) 名古屋大	15:03.90	中根 美七海(4) 東京大	15:16.54	阿部 祥典(2) 名古屋大	15:24.14	谷河 幸祐(3) 大阪大	15:36.76	古田 龍嗣(4) 九州大	15:45.73	
7月31日	男子110mH 風: -0.3	釜谷 拓磨(4) 北海道大学	14.36	齋藤 岳(3) 名古屋大	14.68	土原 優太(3) 大阪大	14.74	齋藤 晃汰(3) 東北大	14.74	磯田 晴太郎(3) 大阪大	14.99	高橋 遼平(3) 東京大	15.12	岡田 幹太(3) 東北大	15.35	山下 寛大(1) 北海道大学	15.59	
7月31日	男子400mH	田中 豊(4) 九州大	50.69 GR	岡田 幹太(3) 東北大	53.64	阿部 竜胆(1) 東北大	54.10	池谷 駿(2) 東北大	54.24	沖田 啓紀(2) 大阪大	54.32	ウォルシュ 禅 (4) 東京大	54.54	磯田 晴太郎(3) 大阪大	56.03	青柳 佑(1) 京都市大	56.80	
7月31日	男子3000mSC	小川 海里(2) 名古屋大	9:18.21	奥村 日向(4) 北海道大学	9:22.67	瀬川 莉玖(4) 東京大	9:28.78	深谷 麻陽(1) 名古屋大	9:41.85	松村 公平(2) 名古屋大	9:47.79	越川 剛暉(2) 東京大	9:54.72	秋野 僚太(4) 北海道大学	9:57.26	鳥山 拓実(2) 東北大	10:07.54	
7月31日	男子5000mW	大島 涼賢(3) 名古屋大	22:25.67	梅本 崇弘(4) 名古屋大	22:33.53	冨田 尚希(4) 名古屋大	22:36.26	赤峰 健斗(2) 大阪大	23:02.32	辻本 隆文(4) 東北大	23:06.70	尾原 翔(3) 京都市大	23:17.93	原 圭佑(3) 京都市大	23:24.27	池田 尚平(4) 京都市大	23:47.96	
7月31日	男子4X100mR	大阪大 菅野 宏紀(4) 松中 馨大(3) 家方 優希(4) 梅田 光太郎(2)	40.97	名古屋大 藤野 晃志(1) 西川原 友輝(2) 鳥居 青矢(4) 山本 悠生(4)	41.07	東京大 新倉 佑輔(3) 横山 雄大(3) 香月 翔太(4) 東 楓太(2)	41.26	京都市大 山田 慎之助(2) 室 和希(4) 齋藤 晃汰(3) 西尾 陸大(2) 川手 拓朗(2)	41.61	東北大 元木 盛太(2) 齋藤 晃汰(3) 西尾 陸大(2) 川手 拓朗(2)	41.78	九州大 武田 空(4) 草林 大翔(2) 吉田 多寛(3) 小川 翔太(2)	41.90	北海道大学 秋山 隆(1) 玄 丈太郎(1) 久保 舜一郎(3) 磯部 隼汰(1)	42.35			
7月31日	男子4X400mR	大阪大 西岡田 航大(2) 杉島 匠(3) 家方 優希(4) 細野 航太郎(4)	3:15.36	東京大 井上 賢志(1) 松永 隆宏(3) 香月 翔太(4) 西岡 健伸(4)	3:18.18	東北大 菅野 涼太(1) 岡田 幹太(3) 阿部 竜胆(1) 佐藤 千仁(4)	3:18.63	九州大 中島 聡哉(1) 田中 豊(4) 海地 博斗(1) 三田 智己(4)	3:19.11	京都市大 益田 椋多(2) 藤浦 敦士(3) 角谷 幸紀(3) 岩本 翔太(2)	3:22.33	名古屋大 石井 陽稀(3) 山本 悠生(4) 西川原 友輝(2) 杉原 陸斗(3)	3:22.59	北海道大学 高橋 コウ(1) 林 亮佑(4) 宮瀬 陸(4) 釜谷 拓磨(4)	3:26.06			
7月31日	男子走高跳	山中 駿(2) 京都市大	2m22 GR	鷲原 泰輝(3) 京都市大	1m96	平山 朝陽(2) 東北大	1m90	嶋崎 雄飛(3) 東北大	1m90	酒井 亮(1) 東京大	1m90	田中 颯真(1) 京都市大 佐藤 肇(4) 大阪大	1m85 1m85		田中 静之介(1) 東京大	1m85		
7月31日	男子棒高跳	圓山 遥斗(2) 北海道大学	4m30	藤 虎康(3) 九州大 野田 耀司(4) 東北大	4m20 4m20			佐藤 耀介(3) 大阪大	3m80	山田 大夢(2) 大阪大 今西 直(4) 京都市大	3m80 3m80		深井 颯一郎(2) 京都市大	3m60	根本 大輝(3) 東北大	3m60		
7月31日	男子走幅跳	高橋 昂生(1) 京都市大	7m25(+1.9)	細島 慎友(4) 東北大	7m03(+0.8)	太田 匠哉(4) 九州大	7m03(+1.1)	小林 恒方(3) 大阪大	7m00(+1.7)	梶 慎介(3) 京都市大	6m97(+2.7) 公認 6m83(+1.5)	市川 忠樹(3) 名古屋大	6m95(+1.1)	齋藤 啓(3) 京都市大	6m81(+0.6)	杉浦 天斗(2) 東京大	6m74(+1.5)	
7月30日	男子三段跳	梶 慎介(3) 京都市大	15m38(+1.6)	齋藤 啓(3) 京都市大	14m30(+2.3) 公認 14m21(+0.6)	大谷 航平(3) 東北大	14m29(+0.1)	淺田 朋来(4) 九州大	14m26(+1.1)	若松 駿(3) 東京大	14m23(+0.9)	奥村 涼介(3) 大阪大	14m17(+0.6)	山中 駿(2) 京都市大	14m15(+0.6)	藤野 晃志(1) 名古屋大	13m94(+2.0)	
7月31日	男子砲丸投	眞鍋 聡志(4) 京都市大	12m67	中村 龍彦(4) 名古屋大	12m26	松岡 幹也(4) 名古屋大	10m65	梶 翔太(3) 名古屋大	10m35	根本 大輝(3) 東北大	10m30	田上 陽悠(3) 大阪大	9m67	川内 蒼馬(2) 東北大	9m61	那木 悠右(1) 大阪大	9m27	
7月31日	男子円盤投	中村 龍彦(4) 名古屋大	37m35	梶 翔太(3) 名古屋大	37m29	眞鍋 聡志(4) 京都市大	37m04	安岡 大生(3) 名古屋大	34m23	田上 陽悠(3) 大阪大	31m43	佐野 立(1) 北海道大学	30m37	安藤 正貴(2) 京都市大	30m19	根本 大輝(3) 東北大	28m81	
7月30日	男子ハンマー投	中村 龍彦(4) 名古屋大	50m67	柳生 憲伸(4) 名古屋大	33m56	梶 翔太(3) 名古屋大	31m32	眞鍋 聡志(4) 京都市大	30m96	毛利 幸登(1) 東京大	24m67	岡本 亜哲(2) 京都市大	20m98	廣谷 雄大(4) 大阪大	20m54	金岡 有途(1) 東北大	20m04	
7月31日	男子やり投	廣谷 雄大(4) 大阪大	57m85	青木 秀磨(2) 北海道大学	57m82	松岡 幹也(4) 名古屋大	57m23	永井 純平(3) 大阪大	56m52	石橋 輝(1) 北海道大学	55m51	河野 颯平(4) 九州大	54m02	梶 翔太(3) 名古屋大	52m98	魚井 敬介(2) 大阪大	50m32	

日付	種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
7月31日	女子100m 風: -0.5	祖父江 真子(3) 名古屋大 12.45	米山 寧音(4) 九州大 12.50	三好 紗椰(3) 京都大 12.79	菊地 志乃(1) 東北大 12.88	加藤 七海(4) 大阪大 1310	山崎 萌々子(4) 東北大 1312	阿部 愛美(2) 大阪大 13.21	
7月31日	女子400m	菅田 理乃(2) 東北大 57.51	入江 明歩(3) 北海道大学 58.71	山崎 萌々子(4) 東北大 58.71	加藤 七海(4) 大阪大 58.94	阿部 愛美(2) 大阪大 59.58	藤井 美月(2) 九州大 1:03.42		
7月31日	女子800m	吉良 瑞希(3) 九州大 2:14.19	濱田 恵美(2) 大阪大 2:16.29	菅田 理乃(2) 東北大 2:19.26	小川 桃依(2) 大阪大 2:24.43	氏家 颯花(2) 北海道大学 2:25.61	佐藤 綾敏(1) 名古屋大 2:27.21	新保 歩(2) 京都大 2:27.92	近藤 萌々葉(1) 九州大 2:31.46
7月31日	女子3100m	濱田 恵美(2) 大阪大 10:08.04	佐藤 綾敏(1) 名古屋大 10:19.33	石原 優花(1) 京都大 10:22.84	瀧江 悦子(4) 九州大 10:40.66	氏家 颯花(2) 北海道大学 10:50.38	末永 紗希(4) 九州大 10:54.55	阿部 柚佳(4) 東北大 11:14.24	小柳 舞麗(4) 東京大 11:14.70
7月31日	女子100mH 風: -1.5	坂口 なつこ(2) 名古屋大 15.15	小西 菜月(4) 京都大 15.44	山崎 萌々子(4) 東北大 15.70	百合草 美優(3) 名古屋大 16.34	高橋 明音(2) 北海道大学 16.55	新保 歩(2) 京都大 16.82	渡辺 結奈(2) 九州大 18.29	西條 絵莉香(3) 東北大 20.09
7月31日	女子4×100mR	名古屋大 48.18 坂口 なつこ(2) GR 祖父江 真子(3) 小林 はづき(4) 中村 友香(4)	九州大 49.78 吉森 いそら(1) 米山 寧音(4) 藤井 美月(2) 石井 晶子(2)	大阪大 50.08 中谷 心愛(1) 加藤 七海(4) 阿部 愛美(2) 竹中 ゆりあ(2)	東北大 50.31 加賀谷 美結(1) 山崎 萌々子(4) 伊藤 未空(3) 菊地 志乃(1)	京都大 50.48 森尾 美月(3) 齋藤 虹香(1) 三好 紗椰(3) 齋藤 あおば(2)	北海道大学 50.60 酒井 穂名(3) 入江 明歩(3) 高橋 明音(2) 山寺 稔(1)		
7月31日	女子走高跳	小西 菜月(4) 京都大 1m72 GR	百合草 美優(3) 名古屋大 1m69 GR	中村 友香(4) 名古屋大 1m66 =GR	原田 萌々子(2) 東北大 1m60	竹中 ゆりあ(2) 大阪大 1m50	井上 琴(2) 九州大 1m45		
7月31日	女子走幅跳	小林 はづき(4) 名古屋大 5m68(+1.4)	山寺 稔(1) 北海道大学 5m28(+1.5)	伊藤 未空(3) 東北大 5m27(+2.9) 公認 5m18(+1.3)	石井 晶子(2) 九州大 5m26(+0.8)	江尻 智香(3) 名古屋大 5m00(+0.3)	須藤 桃由(2) 東北大 4m93(+2.7) 公認 4m87(+0.1)	楠 あぐり(1) 北海道大学 4m77(+1.3)	高井 知沙(3) 大阪大 4m46(0.0)
7月30日	女子砲丸投	畠山 千果(4) 東北大 11m14	篠田 佳奈(2) 京都大 10m20	小西 菜月(4) 京都大 9m84	辻 阜耶(1) 大阪大 8m72	千田 くるみ(1) 北海道大学 8m29	酒井 穂名(3) 北海道大学 7m92	金井 智穂(3) 名古屋大 6m29	中平 安美(3) 名古屋大 5m37
7月31日	女子やり投	篠田 佳奈(2) 京都大 50m41	小西 菜月(4) 京都大 32m61	畠山 千果(4) 東北大 29m32	丸箸 里奈(3) 大阪大 25m59	辻 阜耶(1) 大阪大 21m62	権藤 千咲(1) 名古屋大 20m72	千田 くるみ(1) 北海道大学 18m84	楠 あぐり(1) 北海道大学 16m79

## ◎七大学戦の男女優勝杯更新寄贈について

7月31日、31日に開催された七大学戦の際に、七大学陸上競技部OB・OG会より男女優勝杯が更新寄贈されましたので、お知らせします。

### <経緯概要>

京都大学陸上競技部OB・OG会(蒼穹会)から、七大学戦の男子優勝盾・女子優勝杯について大会名変更(現状は旧の大会名のまま)と経年劣化対応を理由として、男女優勝杯更新寄贈の提案がありました。本提案の可否について、各大学陸上競技部OB・OG会で検討した結果、費用は各大学のOB・OG会で均等負担とし、実施することが決まりました。

### <変更内容>

- ・男子優勝盾(寄贈:朝日新聞社)、女子優勝杯(寄贈:七大学OB会)  
⇒ 男女どちらも優勝杯(寄贈:七大学陸上競技部OB・OG会)
- ・大会名変更
- ・寄贈年月(2022年7月)を銘板に刻印。(更新前は記載がない)



七大学戦優勝カップの写真

## ◎自己ベスト更新者一覧(7/13~8/21)

### ・男子 100m

久保田大聖(2)11.48(-0.9) 七大戦(7/31)

片桐大智(M2)11.14(-0.9) 七大戦(7/31)

米井潤風(M1)11.96(+1.1)  
仙台大記録会(8/5)

小出寿啓(3)11.99(+1.4)  
仙台大記録会(8/5)

細島慎友(4)11.22(-0.2) 仙台大記録会(8/6)

西尾陸大(2)11.22(+1.0) 仙台大記録会(8/6)

### ・男子 200m

八巻隼人(M2)22.13(+1.2)

福島県選手権(7/17)

### ・男子 400m

高倉直幸(M2)54.51 七大戦(7/31)

川野輪拓也(2)50.27 七大戦(7/31)

小出寿啓(3)51.81 仙台大記録会(8/5)

阿部竜胆(1)50.84 仙台大記録会(8/6)

### ・男子 800m

大塚光陽(2)1:53.48 七大戦(7/31)

千葉琢巳(4)1:54.81 七大戦(7/31)

尾崎祐太(2)1:59.99 七大戦(7/31)

### ・男子 1500m

熊谷慧(1)4:32.93 七大戦(7/31)

菅原大地(1)4:33.29 七大戦(7/31)

向田祐翔(2)4:09.98 七大戦(7/31)

児玉健太(4)4:16.36 七大戦(7/31)

日向野航希(3)4:37.28  
東日本医療系学生対抗競技会(7/16)

### ・男子 5000m

阿部圭宏(4)15:38.03 七大戦(7/31)

### ・男子 110mH

西里碧澄(1)15.72(+0.4) 仙台大記録会(8/6)

### ・男子 400mH

阿部竜胆(1)54.10 七大戦(7/31)

池谷駿(2)53.94 七大戦(7/31)

岡田幹太(3)53.64 七大戦(7/31)

### ・男子 3100mSC

小林由輝(2)10:16.42 七大戦(7/31)

### ・男子走高跳

小出寿啓(3)1m85

東日本医療系学生対抗競技会(7/16)

### ・男子棒高跳

野田耀司(4)4m31 全日本医歯薬獣医(8/17)

根本大輝(3)3m60 七大戦(7/31)

倉部彰土(1)2m40 仙台大記録会(8/6)

### ・男子走幅跳

細島慎友(4)7m03(+0.8) 七大戦(7/31)

久保田大聖(2)6m34(+0.8) 七大戦(7/31)

柴原朋也(M2)6m79(+1.0) 七大戦(7/31)

小出寿啓(3)6m18(+0.4)  
仙台大記録会(8/5)

### ・男子三段跳

大谷航平(3)14m29(+0.1) 七大戦(7/31)

久保田大聖(2)13m85(+0.9)  
仙台大記録会(8/5)

### ・男子砲丸投

根本大輝(3)10m31 七大戦(7/31)

小出寿啓(3)9m28 仙台大記録会(8/5)

### ・男子円盤投

倉部彰土(1)19m60 七大戦(7/31)

### ・男子やり投

小出寿啓(3)44m62 仙台大記録会(8/6)

### ・女子 100m

山崎萌々子(4)12.77(-1.9) 七大戦(7/31)

### ・女子 400m

山崎萌々子(4)58.71 七大戦(7/31)

### ・女子 800m

加藤ひより(M2)2:18.60 新潟県選手権(7/18)

### ・女子 1500m

加藤ひより(M2)4:50.83 新潟県選手権(7/17)

### ・女子 100mH

西條絵莉香(3)20.09(-1.5) 七大戦(7/31)

### ・女子走高跳

原田萌々子(2)1m60 七大戦(7/31)

須藤桃由(2)1m31  
東日本医療系学生対抗競技会(7/16)

## ◎OB・OG 戦のお知らせ

今年もOB・OG戦を開催したく存じます。多くのOB・OGの皆様のご参加をお待ちしております。

日付 : 10月22日(土)

場所 : 評定河原グラウンド

種目(予定) : 100m 400m 1500m 走高跳 走幅跳 砲丸投 やり投 リレー

申込方法、申込期間、連絡先は別途案内申し上げます。

## ◎今後の予定

- ・9月9～11日 第91回日本学生陸上競技対校選手権大会(たけびしスタジアム京都)
- ・9月20～22日 第35回国公立27大学対校陸上競技大会(上尾運動公園陸上競技場)
- ・9月26日 秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会  
兼 第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会  
(岩手・北上総合運動公園陸上競技場)
- ・10月16～17日 第51回東北学生陸上競技選手権大会(弘進ゴムアスリートパーク仙台)
- ・10月22日 OB・OG 対現役部員対抗陸上競技大会(東北大学評定河原グラウンド)
- ・10月31日 第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)
- ・11月6日 秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会  
(愛知県名古屋市～三重県伊勢市)

## ◎編集後記

今号からOBOG通信担当になりました、須藤桃由と申します。不慣れなところもあるとは思いますが、OB・OGの皆様には東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思っております。1年間よろしくお願いいたします。

七大戦では部員が一丸となって、競技、応援、サポート、運営に取り組みました。男子4位、女子3位と悔しさの残る結果となりましたが、主将・斎藤宥哉、女子主将・伊藤未空の新体制もと、全日・全女予選会、国公立27大戦といった各種大会に向けて練習に励んでいます。新体制で戦っていく東北大学の選手たちの活躍にご期待ください。

文責 OBOG 通信担当 須藤桃由  
編集補助 牧野雅紘、酒井健

東北大学陸上競技部三秀会  
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1  
東北大学評定河原グラウンド内  
hukumu\_tohoku\_ob2sin@yahoo.co.jp